

朝の館内放送

平成30年9月3日
スピーカー 市長

みなさん、おはようございます。
市長の中村健です。

先日、自治体戦略2040構想について、講演を聞く機会がありました。

自治体戦略2040構想というのは、多様な自治体行政の展開により、社会構造の変化への強靱性を向上させる観点から、65歳以上の高齢者人口が最大となる2040年頃の自治体が抱える行政課題を整理した上で、今後の自治体行政のあり方を展望し、

早急に取り組むべき対応策を検討することを目的として、総務大臣主催の研究会の下で策定された戦略です。

わが国では、高齢化が急ピッチで進行するとともに、2040年頃には、毎年100万人近くの人口が減少すると言われ、自治体の税収や行政需要に大きく影響を与えることが予測されます。

そして、2040年頃を見据えた自治体行政の課題として国が挙げていることは、①スマート行政への転換、②公共私（いわゆる自助・共助・公助）による暮らしの維持、③圏域マネジメントと二層制の柔軟化、④東京圏のプラットフォームについて、の4点です。

この中で、基礎自治体の業務として特に深く関係してくるのが、スマート行政への転換です。

自治体の経営資源が制約される中、法令に基づく公共サービスを的確に実施するためには、AIやロボティクスなどの先進技術を活用したり、基幹業務の情報システムを自治体間で共通化することで、業務の自動化・省力化を図り、より少ない職員で効率的に事務を処理できる体制の構築の必要性がうたわれています。

現在が2018年ですので、一足飛びに2040年に対応できる体制を構築する必要はありませんが、私たちは日々、目の前の業務や課題に関心が行きがちです。

朝の館内放送

しかし、中長期で見た自治体運営を考えていくことも同時に重要であり、20年先・30年先のことも考えながら業務に取り組み、積極的に提案をしてほしいと思います。

提案という意味では、今回、ワクワク西尾創生コンテストの募集に対し、多くの職員のみなさんから応募をいただきました。

ありがとうございました。

熱い思いのこもった提案に対し、一件一件、自分の目でしっかり読ませてもらっています。

特に、若手・中堅職員のみなさんからの、こうした積極的な提案が、間違いなく役所全体の活性化につながりますので、今後とも「チーム西尾市」で、明るい西尾の未来を考えていきましょう。